

**○7番（古川盛義君）〔登壇〕**

議長より登壇の許可をいただきましたので、今期最後となります私の一般質問をさせていただきます。久しぶりでございますので、よろしく願いをいたします。

まず、通告順に従って進めてまいりたいと思います。

市長は、武雄に生まれてよかった、武雄で育ってよかった、優しい市政を目指しているといつも言われます。私も首長として当然の姿勢であろうと思います。そこに一番大切なことは、すばらしい子どもたちを育てると、子どもたちを育てるために充実した教育が必要であろうと思います。

そこで、教育関連の質問をいたします。

昨年8月24日に開催されました武内小学校授業力向上夏季講座についてお尋ねを申し上げます。

まず、この講座が、開催が何回行われておるのか、参加数がどのように変化をしてきたか、参加者数ですね。それから、講師の先生がどこら辺からお見えになっているのかをまず教育長にお尋ねを申し上げます。

**○議長（杉原豊喜君）**

浦郷教育長

**○浦郷教育長〔登壇〕**

市内各小・中学校、さまざま課題もございますけれども、本当に熱心に意欲的に取り組んでもらっております。その中でお尋ねの武内小学校での授業力向上夏季講座でございますけれども、平成18年度からことしで4回目が今年度行われております。18年度は30名ほどの研修会だったそうでありますけれども、19年度は2日の日程で294名、それから、昨年度は国語だけの1日で234名、うち長崎県から35名、今年度は272名で長崎県からそのうち60名というように、市内、県内だけでなく、県内外から参加していただいているというふうに聞いております。学校の研究会で200名集まられるというのは大変なことでありまして、それだけ関心の高い研修会になっているということでございます。

それから、講師の先生についてもお尋ねございました。武内小学校の先生方が公開される場合もございますけれども、全国的に見てもすばらしい指導力を持たれた先生方がお見えいただいております。昨年、ことしは筑波大学の附属小学校の二瓶先生という方がいらっしゃいました。あるいは全国各地で指導しておられる野口芳宏先生など、全国的にも指導力の高い先生においていただいております。本当に子どもたちの素直な頑張りですね、学ばれる先生方の真剣さで熱のこもった研修会になっているということを拝見しております。

**○議長（杉原豊喜君）**

7番古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

すばらしい先生と多数の方が参加をされて講座が開催されているということをお聞きしましたが、研究授業もありますので、講座が開催される以前と以後とで子どもたちがどのように変化をしてきたか、どのようなところにプラス面が見られるかということをお尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

内容的に授業力を高めるという先生方の大きなねらいがあるわけでございます。しかし、夏休みの間に子どもたちの授業も含めていただいているわけでありますので、研究会が研究のためだけでは意味ないわけであります。当然子どもたちにメリットとしてあってほしいと、当然あるわけでございます。

一番、武内の対話力ということが県内の先生方の間で言われるわけでありますけれども、人間関係がうまくとれない子どもたちが非常に多いと、ふえているということで、この対話力を中心に置いた研究は非常に高い評価をいただいていると認識しております。人を思いやる言葉選びとか、その使い方とか、そういうことを考えただけでも、国語の時間だけじゃなくて、学校生活や家庭生活、心豊かなものになってくるわけであります。

そういう指導をするために授業力を高めることはどうすればいいのかと、そういうのが根幹に流れている考え方だというふうに思います。

そういう中で、開催の以前と以後での子どもたちの変化でありますけれども、古川議員も見られたかもわかりませんが、体育館で200名ほどの先生方に囲まれた中で非常に真剣な授業をするわけでありまして、そのときだけで授業できるわけじゃございません。そのことを意識して先生方は日常頑張っていただいているわけであります。

そういう面で、自分の考えや思いをしっかりそういう場でも言えると、そういう子どもたちに育っていると、それだけでも大変な自信であります。

学力状況調査の結果を見るまでもなく、そういう意味でいろんな面での高まりということを見られるところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

今、教育長も言われましたとおり、私も6年1組の国語科学習指導というのに参加をさせていただきましたが、先生たちの熱意ある授業を拝見しまして、もう少し地域の親御さん、保護者さんに御参加をいただけたらなと思ったんでございますが、教育長いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

基本的に私も同様に思います。先生方の研修という、どうも内輪にこもっていないかという印象は確かに持つわけでございます。

ただ、県内外からそれだけの先生方お見えになるということだけで育友会の皆さんとか地域の皆さんに大変な応援をいただいているという状況がございます。市内のどこの校区におきましても、こういうような授業につきましてはどんどんやっってくださいという応援の言葉をいただくわけでありまして、先ほど申しましたように、そういう場で子どもたちの真剣な学びの姿というのはぜひ保護者の方、地域の方もごらんいただきたいというふうに考えます。

来年度の予定を先ほど伺ったんですけれども、8月27日に来年度も予定をされているというようなことでございます。そういう意味で、ぜひごらんいただいて子どもたちを応援していただけたらというふうに私からもお願いしたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

次に、北中と若木小学校、武内小学校で小中連携教育実践研究事業というのが行われております。この目的はどのようなところにあるのかお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

皆様方のお耳にされる中1ギャップというのが現実にあるわけでございます。例えば、コミュニケーションが苦手な子どもたちが小学校のときの友達とか先生方の支えを失ったときに不安が増大してみたり、あるいは小学校ではリーダーとして活躍してきた生徒が中学校で居場所を失ったりと、そういうようなこともありました。現実に全国ベースでいきますと、不登校が3倍ぐらいに急にふえると、あるいははじめが調査によっては2倍というのもありますし、4倍というのものもあるわけですが、そういうように、中学校1年生の段階でそういう不安な状況というのが見られると。そういうこともありまして、小中をもっと段差を低くする必要があろうということで小中連携、場合によっては小中一貫に進んだところもあるわけですが、小中連携の授業を全国的に取り組まれておりまして、武雄北中学校におきましては、昨年度、今年度の2カ年間、国立政策研究所の委嘱を受けまして研究をされたということでございます。

お尋ねの目的というのは、段差の低い接続を目指して9年間を見通した教育について考えてもらうということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

この事業をやられてどのような変化が子どもたちに見られたのか、それから、今後どのように取り組みを進めていかれるのか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

研究としては、北中校区で行ったわけではありますが、どの中学校区にも共通する課題でもございます。そういう意味で、幾つかの気づきを申したいと思いますが、やはり子どもたちが中学校への親しみを感じたんじゃないかということがございます。中学校の先生に直接会う、あるいは中学校の生徒たちと一緒に活動する、学校を訪ねる、そういうことでおのずと中学校への親しみ、意欲につながっているのではないかというふうに思います。

また、先生方も小中お互いの先生が顔を合わせるといのもあるようで少ないわけですが、直接的にそういうことを意識して取り組んでもらうと、方法を考えてもらうということで大きな変化を持つことができたのではないかというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

私も参加をさせてもらって、小学校の生徒さんと中学校の生徒さんが技術家庭の授業をしながら、機械を使いながら、お兄ちゃんから習いながら授業をして、一つの作品をつくるというようなことをしておりました。非常にほほ笑ましい光景でございまして、今後もとにかくこういう事業は続けてほしいとお願いを申し上げます。

次に、武内町を横断いたします松浦川についてお尋ねをいたします。

松浦川と申しますと、昭和52年ごろ、唐津の大土井に潮どめ工事が完成をしまして、それから約三十数年かかって伊万里市松浦町まで工事が進んでまいりました。若木、武内の部分は県管理区間でございますので、県で工事をされると。少しずつ県で工事をされておりますが、昨年7月の水害のときも、これも水害で冠水したところでございます。（写真を示す）これも冠水したところでございます。県道もとにかく市道も……

○議長（杉原豊喜君）

もっときれいに見せてください。ゆっくりカメラのほうに向かって。

○7番（古川盛義君）（続）

あのですね、交通が麻痺して、農地には水が入り、ごみが入りということで大変な思いをいたしました。早急な河川改修が望まれるところでございますが、松浦川の改修の計画、当

初どのような計画であったのかお尋ねを申し上げます。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

松浦川の改修計画でございますが、当初計画、今現在も変わっていませんけど、平成14年から22年までの9年間ということでの計画になっております。萩ノ尾堰から上流部という形でございます、延長的には7.2キロ、そして、そのうちの松浦川の部分が6.2キロ、鳥海川が1キロ、計の7.2キロです。その中で真西橋までの4キロについて今改修工事が行われるということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

私の主観でございますが、最初の計画より相当おくられていると。現在までの工事の進捗状況と、どうしてこんなに進まないのかなということがちょっとわかりませんので、お答えできる範囲でお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

21年度末、今年度末ですね、今年度末での進捗率としては、事業費ベースで約37%でございます。このおくれの原因としましては用地交渉に難航していると。ちょっと途中で共有地がございます、その共有地分で難航しているということを聞いております。

○議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

河川も早急な対応をお願いいたしたいですが、そこに隣接をしております相知山内線の改修も同時に進めるという説明を受けておたわけでございます。道路改修が、県道の改修が進まなければ、枝道の市道の改修もできないというような状況になっております。

そこで、先ほどの河川と同様の質問でございますが、当初の計画はどうなっていたのかお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

相知山内線につきましても、確かに今現在行っているわけですが、区間としては真西橋前のところの集会所ですね、あそこから境橋まで、この区間の940メートルの事業区間で実施

されていると。それで、これにつきましても、議員おっしゃるとおり、用地の分でどうしてもうまくいっていないというところでおくれている状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

河川改修がずれ込めば県道の改修もおくれる、それと市道の改修もおくれるという、3つ結局おくれるわけでございます。とにかく市道の改修も河川改修が終わって県道の改修が終わって、それから市道の改修をするというようなことでしたが、今、何年後にどうなるのか、先が全く見えない状況でございますので、市道も完全にどうこうということではできないかもわかりませんが、市道の角切りとか、いろいろの部分をお願いしたいと思いますが、どのようにお考えでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

率直に言って、見通しは全く立っておりません。と申し上げますのも、もともと民主党政権になって公共事業費20%削減をするということ、これは20%ずつ削減と言う方もいらっしゃるかもしれませんが、公共事業費の総額がもうがた減りして国土交通省も非常に困っています。その中で、ぜひ民主党政権にお願いがあるのは、これユーチューブでも流れていますし、私も知り合いもいますので、見てほしいのは、やはり公共事業費をいたずらに、正確に言えば18.9%です、これ減らすのではなくて、それも含めて一括交付金という形でやはり我々のほうにお渡しをしてほしいと。それを私たちは、地方自治、地域主権の本旨の中でそういった予算の配分を行ってまいりたいというふうに思っています。

それともう1つ、システムの問題があります。民主党政権の場合は、これ衆議院の予算委員会の集中質疑だったでしょうか、箇所づけ等の問題が出てまいりました。そのとき自民党さんでもあんなあからさまなことはやっていなかったわけですね。ですので、ちょっと驚いているんですけども、そういうシステムをちゃんとしてほしいと。要は、私はBバイCとは言いません。費用対効果と言い始めると、それは公共事業としては成り立ち得ませんので、どれだけ、例えば生命に危険性があるか、あるいはどれだけ洪水が起きてどれだけの被害を与えることができるか、逆に逆BバイCですね、これがしないことによってどれだけの被害をこうむるのかというような試算、これ民主党しかできないと思います。

そういうことで、私はぜひシステムの件と、予算を確保しろとは言いません。これは国も未曾有の財政難ですから、それはよくわかります。ですので、そういったことを含めて一括交付金という形で議会と私たちにいただければ、その範囲だったら私たちの責任を持って、いや、例えば松浦川は国管理でありますけれども、これだけの整備ができますと、いつする

と、今全く言えないんですね。ですので、ぜひそういったことを要望したいなというふうに思っておりますので、議員のお力をまたぜひおかりをしたいと思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

質問の途中ですが、ここで議事の都合上、午後1時20分まで休憩をいたします。

休	憩	11時57分
再	開	13時19分

○議長（杉原豊喜君）

引き続き一般質問を続けます。

7番古川議員の質問を続けてください。7番古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

午前中に引き続き質問をさせていただきます。

河川と相知山内線に隣接してあります特別養護老人ホームひいらぎの件でございます。

（パネルを示す）これが北中の3差路のところなんです、これを先に行きますとひいらぎがありまして、その先に境橋という橋があります。そこで年に二、三回、必ず冠水をして、ひいらぎが孤立をするわけでございます。川の改修が進まなければ県道の改修も進まないということでございますが、7月のときも4時間から5時間孤立をしておりました。このような状況をどのように考えられるか、お答えをいただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

○國井くらし部長〔登壇〕

ひいらぎのほうにお伺いしましたところ、議員がおっしゃるように、施設そのものの冠水はなくて、道路の両わきですね、そのあたりが冠水して影響が出ていると。どういう状況かと申しますと、例えば、朝夕の送迎ですね、デイサービスの送り、それから日常生活では食料品等の搬入に困ると。ただ、事業そのもの自体について、今のところ大した影響は出ていないということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

支障がないというのはいかんと思えます。支障があるから言いよるわけですね——じゃなかでしょうか。時間的には長いか短いかはあります。しかし、必ず年に二、三回浸かるわけです。それで孤立状態になるわけです。そういうとき、もし3時間、5時間の間に、仮に急病人が出たというときは、市としてどのように対応されますか。

○議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

○國井くらし部長〔登壇〕

施設に防災計画ということで決められておりますけれども、これは、火災に対する防災計画を決められておりますので、ひいらぎのほうについては、水害等の防災計画をつくっていないということでもありますので、その計画を早急につくっていただきたいということを、今、要請しております。

市の対応としましては、災害の程度によって、災害本部等を設置しますが、その中で連絡等行いながら対応していきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

7 番古川議員

○7 番（古川盛義君）〔登壇〕

ちょっと納得しにくかばってん。災害警戒本部とか災害対策本部とかを設置されます。それはよかとです。しかし、川がはんらんをしたときに、消防団も警察も、消防の救急車も何も通れないわけです。災害対策本部は、その道路の手前で、ここはもう行かれませんか、ちゃんととめんさっわけです、ここは危ないけん行きなさんなど。本当に孤立したとき、私、病人が出たらどがんしんさつとかなということが一番心配になるわけでございます。もし何かあったとき、もし万一何かあったときに、行政の責任ということが問われるんじゃないかと思うわけでございます。そこをどのようにお考えなのか、お尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

御指摘はそのとおりだと思いますので、今、政策部を中心として避難勧告の基準等を作成しております。そこで、場所、あるいは災害的に弱者の方々というのは、一般という言葉が適切かどうかは別にして、その勧告の基準をちょっと分けなきやいけないということも考えざるを得ない状況かなと思っておりますので、先ほどの議員の御指摘を踏まえて、そういう基準のつくりには生かしてまいりたいと思います。

それともう1つ、これはたまたまだったんですけれども、さきの武内町の大雨の被害報告書、これは提供が武雄市消防団第4分団がつくられていて、失礼な言い方になるかもしれませんが、非常によくできています。これを見ると、もう一目瞭然。あたかも本当に古川盛義議員が御質問をされていることが、これは写真も添付されておりますし、場所も出ていますし、こういったことで、これは多々良地区なんですけれども、地区別に出ていて、さすがやっぱり武雄市消防団だなと。しかも、これは第4分団ですので、この場をかりて御礼を申し上げます。



こういう消防団の活動と私ども行政、そしてひいらぎさんの話が出ましたけれども、そういう施設が一体となって災害的に、社会的に弱い方々を守っていくということだと思っておりますので、また、後でこれはちょっと供覧をしたいと思っておりますので、ぜひ議員の皆様方もごらんになっていただければありがたいというふうに思います。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

50名の皆さんがひらいぎに入所をされております。通常は何の支障もないと思うんです。しかし、何かこういう冠水時に、今までよくいろいろ急患とか急病人とか出なかったなと思うところがございますが、大体悪いことは悪いときに重なるのが通常でございます。そこで、福祉関連の会議もたくさんあると思いますが、福祉の関係向上から県のほうにもひとつ要請をしていただきたいと思いますと思うんですが、どうぞ。

○議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

○國井くらし部長〔登壇〕

福祉関連の会議で、10市の福祉事務所長会議等があります。これは、各事務所の問題点等について協議するところでもありますので、そういうところを通じて、一応福祉施設の危機管理、安全について問うていきたいと思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

ぜひそのように各方面からお願いをいただきたいと思いますと思っております。ひいらぎさんも一生懸命しておられますが、水害で冠水したときだけは、だれもどうしようもないわけですね。ちょっと行けるといえばヘリコプターぐらいなものでございます。ですから、そこら辺も今度水害の防災対策を検討されるということでございますので、ひとつ慎重に御協議をいただきまして、万一のときに備えていただきたいと思いますということをお願い申し上げまして、私の一般質問を終わらせていただきます。